

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標 (抜粋)

園評価の方法について

各園、令和元年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、(1)平成30年度 当園の問題となった項目、(2)令和元年度／(3)令和2年度 当園としての努力していききたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲出し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
平成30年度 当園の改善目標となる項目	<p>『地域に開かれた保育園を目指して』～遊びの内容を充実し、遊びを通して園児一人一人が育って欲しい10の姿を育む～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えがおの日、園開放(異年齢の園児交流) [わらべうたあそび、運動遊び、季節を感じとる遊び] ・自発的に体験や活動ができる環境構成 ・地域子育て支援のあり方を考える(来園者への遊びや絵本等の情報を提供) 	<p>1. 園児の主体性、保育の連続性について研究を深める。 ①真光会指導計画に基づいた領域別指導内容の見直しと実践。 ②園児自ら遊びを見つけたり、遊び込んだりできる環境づくり。主体性を育む保育の工夫。</p> <p>2. 開かれた園づくりを実践する。 ①地域社会との連携(公民館、小学校、施設、高齢者、消防団など) ②園開放 一時保育 保育自由参観(誕生会、体育あそび、英語であそぼう) ③保護者への働きかけ [親子生活カードの取り組み、個人面談、保育の見える化(写真の掲示)、園だより、クラス便り、すくすく便り、ぶらんこ通信、講座(育児講座、保健講座、食育講座、親子クッキング)]</p>	<p>「よき保育者となるために」を実践しよう ～やさしい表情 やさしい言葉 やさしい気持ちで～</p> <p>◎スローガン 「親鸞聖人の生き方に学び まことの保育を広める」 『何事もさして頂く心もて いよいよ励まん おのがつとめを』 【具体的内容】 ○育児支援等計画(6事業)を実践する。 ○保育目標 “慈心不殺”を常に保育教諭等に置き換えて意識する。 ○保育教諭等としての基本姿勢(傾聴・共感・受容・奨励)を心掛ける。 ○S I 理論を積極的学び、保育や日常生活に生かす。 ○生活、遊び共に連続性のある内容とし、領域別指導計画の継続を心掛ける。 ○「園外保育」(園バスの利用を通して体験による学びを生かす。(自然体験、社会性など)</p>	<p>「いろいろな体験や人との触れ合いの中で、いのちを大切に育てる心をはぐくむ保育をめざして」 ①合同仏参や園児向け法話などを通して、仏様を身近に感じ、真光会の保育理念である「いのち」「こころ」「生きる力」の基礎を育めるよう努力する。 ②保育教諭等の資質向上、お互いの共通理解(ほう・れん・そう・かく・しん)を深められるような物的、人的環境構成に努める。 ③異年齢の園児との交流を通して、カメさんタイム、ウィズデー、挨拶運動を継続し、コミュニケーション力を高める。</p>
令和元年度 当園の自己評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放の来園者との交流が不十分だったので、交流を多く持ち、保育園の情報提供や子育ての相談など受けられるようにしたい。 ・異年齢の園児とペアを組んで遊びを楽しむことで普段からお互いを意識しあい、名前を呼んだりやさしく接する姿が見られた。 ・園開放の日の「えがおの日」の取り組みをポスターにして公民館や児童館、郵便局に掲示させてもらい情報提供していった。より多くの方に見てもらえるようにしたい。 ・自発的に遊びを見つけ活動をするのが難しく、保育教諭等で環境作りについて改めて考えていきたい。 	<p>乳幼児期の主体性とは何か、どのようにすれば育まれるのか、年齢別に環境や援助の在り方を深められるよう取り組んだ。昨年度よりも保育教諭等自身の意識が変わり、日々の保育に深まりが出てきた。</p> <p>各クラスで、領域別指導内容を見直しながら、保育を実践した。また、朝礼にて日々の活動を伝え合うことで、全職員が各クラスの保育内容や園児の発達状況を把握することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慈心不殺の心を職員一人一人が常に心掛けており、いのちの尊さについても機会を逃さず伝えることができた。今後も継続していきたい。 ・働きやすい職場づくりについては出勤時間の改善や協力体制のもと時間の有効活用など成果を出すことができた。 ・保育教諭としての学びについては、取り組みに対する個人の意識の違いがあることも現状である。 ・育児支援計画については園内の育児相談件数は増加している。情報の発信を継続していきたい。 ・安全面については散歩日誌や遊具点検表が新たに加わり、今まで以上に徹底した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同仏参、園児向け法話、カメさんタイム、ラジオ聴取等の継続、内容の検討等、共通理解のもと行っていくことができた。園児の発する言葉、聴こうとする姿、表情や考え等から心の成長や聞く力、伝える力の高まり等を感じた。 ・「お互いの共通理解」のために、早番遅番ノートを導入したことで、職員間、保護者との信頼関係の構築に役立ち、良い取り組みであった。 ・ほかほかタイムを通して、園児も職員も一緒に「思いやり」「人間関係」について学び、園児の思いやりの気持ちが育ってきたように思う。
令和2年度 当園として努力していききたい項目	<p>研究テーマ「園児の思いに沿った保育を目指して」～園児一人一人が主体の自発的活動を通して共に学び合う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えがおの日、園開放(異年齢交流) わらべうたあそび、運動あそび、表現あそび ・自発的に体験や活動ができる環境の整備(自発的に遊び込める体験「わくわくの日」設定) ・地域子育て支援のあり方や情報提供の仕方を考える。 ・地域との交流(高齢者交流、児童館交流、地域行事参加、近隣・デイサービス訪問) 	<p>1.園児の主体性、保育の連続性について研究を深める。 ・主体性を育む保育の工夫(援助の在り方と時間の使い方、環境づくり) ・真光会指導計画に基づいた領域別指導計画内容の見直しと実践(異年齢グループ活動) ・主体性ある保育展開を目指した職員個々のスキルアップ(私〇〇極めます/控えよう3つの言葉がけ)</p> <p>2.開かれた園づくりを実践する ・地域社会との連携(公民館、小学校、施設、地域交流、消防団など) ・園開放、一時保育、保育自由参観(誕生会、体育あそび、英語であそぼう) ・保護者への働きかけ(保育の見える化、保育参加、個人面談、他)</p>	<p>「やってみよう!継続の中でも一歩踏み込む気持ちで～基本に戻ろう令和の学び～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭としての学びや共通理解事項の継続、連続性を大切にする ・「わたしたちのちかい」を受け止めていく中で、日々自分に問いかけながら生活する。 ・園内研修や検討会などの進め方(あり方)を見直す ・従来の形にとらわれず、かつ大切なこと、基本的なことは守りつつ、中身を吟味していく ・プラス思考で得意なことにも高め、不得手なことにも挑戦する。 	<p>「人との触れ合いや豊かな環境構成の中、いのちを大切に育てる心をはぐくむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同仏参、園児向け法話、カメさんタイム及びラジオ聴取などを継続し、聞く力、考える力、伝える力を育む保育を目指す。 ・保育教諭等の自己研鑽や資質向上に努め、お互いの共通理解(報告・連絡・相談・確認・信頼)を深めながら、よりよい環境構成に努める。 ・ウィズデー、ほかほかタイムを継続する中で、主体性を伸ばしながら、コミュニケーション能力を持てるようにする。